

【PBLツアー：シンガポール編】

夏休み企画「PBLツアー特集」の第三弾は、シンガポールです。

出発の朝、続々と生徒たちが成田空港に集合し、テンションが上がって目を輝かせている生徒、初めての海外に、緊張や不安から落ち着かない生徒など、総勢98名の生徒が参加しました。

今回のシンガポールツアーは、班に分かれて行う自主研修活動を多く行いました。各班、多民族多宗教社会や資源、観光、経済成長など、昨年からの多くの時間をかけて調べ、PBLツアーに向けた計画を立ててきました。事前学習で立てた仮説を、現地で様々な視点から見て感じ、実際に検証している生徒の姿はとても頼もしいものでした。



シンガポールに到着すると、多くのビルが立つ街並み、看板、人や道路、目に入るもの全てに釘付けになっている様子でした。ホテルに着くと移動の疲れもあってか、明日からの活動に備えて、早めに休む生徒が多く見受けられました。

研修活動が本格的に始まる2日目は、現地学生と日本の学生がチームを作って行動するB&Sプログラムに参加し、現地学生にシンガポールを案内してもらいながら、歴史や文化について学びました。

3日目は班別研修が行われ、それぞれの課題に沿って学びを深めていきました。指定された時間までに、先生が待つチェックポイントに集合します。出発前は不安げな表情を見せた生徒たちですが、チェックポイントに集合したときには、現地の人々と交わした会話や、見て感じたことを思い思いに話してくれる生徒たちの様子に、我々教員陣もホッと胸をなでおろしました。

2日目、3日目と研修活動の夜には、各班から中間発表をしてもらいました。ある班からは、インタビュー内容の改善点と次の日に向けた作戦の共有を全体に行い、またある班からは、社会科教員であり郁文館高校教頭の都筑先生へ、実際に感じた疑問について質問し、シンガポールの歴史と照らし合わせることで、さらに学びを深めることができました。

今回のシンガポールツアーで生徒たちは、事前学習とのギャップや日本との文化の違いなど、海外でしか感じるることのできない体験をたくさんすることができました。郁文館の文化祭「郁秋祭」では、シンガポールで学んだ経験を発表する会があります。是非、足を運んでいただき、生徒たちの学習の様子をご覧ください。

